

2012年5月度 定例自然観察会 報告書

「夙川～北山緑化植物園～甲山森林公園」

1. 概要

- (1)実施月日 平成24年5月13日(日) 午前9時～午後3時半 天候:晴れ、気温18℃
- (2)コース 阪急夙川駅～銀水橋～北山緑化植物園～甲山森林公園
- (3)見所 夙川河川敷の野草、北山緑化植物園のハンカチノキ他多種彩々の花園
甲山森林公園の新緑樹木
- (4)参加者 ビジター36名+会員26名=合計62名
- (5)担当班 1班(リーダー:大橋正規)

2. 準備+実施

- (1)下見 4月10日(世話人)、4月21日(1班)、5月6日(公開)の3回
- (2)説明方法 観察は4グループに班分けし、それぞれに観察リーダーを設定。
- (3)観察リーダー 1班=大橋、2班=石村、3班=青木、4班=井上(信)。



準備運動の後、各班毎に出発。

夙川河川敷の野草の観察。



本番で見れなかったハンカチノキの花等は事前撮影の写真にて説明。

各ポイントで観察リーダーの説明+アカメガシワのスタンプ遊び等



北山緑化植物園にて昼食、出発前に職員の説明。



観察池でエフクレタヌキモの観察



← 赤松と黒松
雌しべと雄しべ
松ぼっくり説明



↑ タンナサワフタギ
の葉に
シロシタホタルガの幼虫



モリアオガエル観察池で解説



甲山森林公園に到着、ホルトノキ、ヤマモモ
等を説明し、予定通り15:30解散



3. 反省会

[総括]: 今回はビジターの参加が多く4班に分け、各班に観察リーダーを設置したのが良かった。

大橋さん準備の配布用案内図+スタッフ用一口メモ+終わっている花の写真が効果あり。

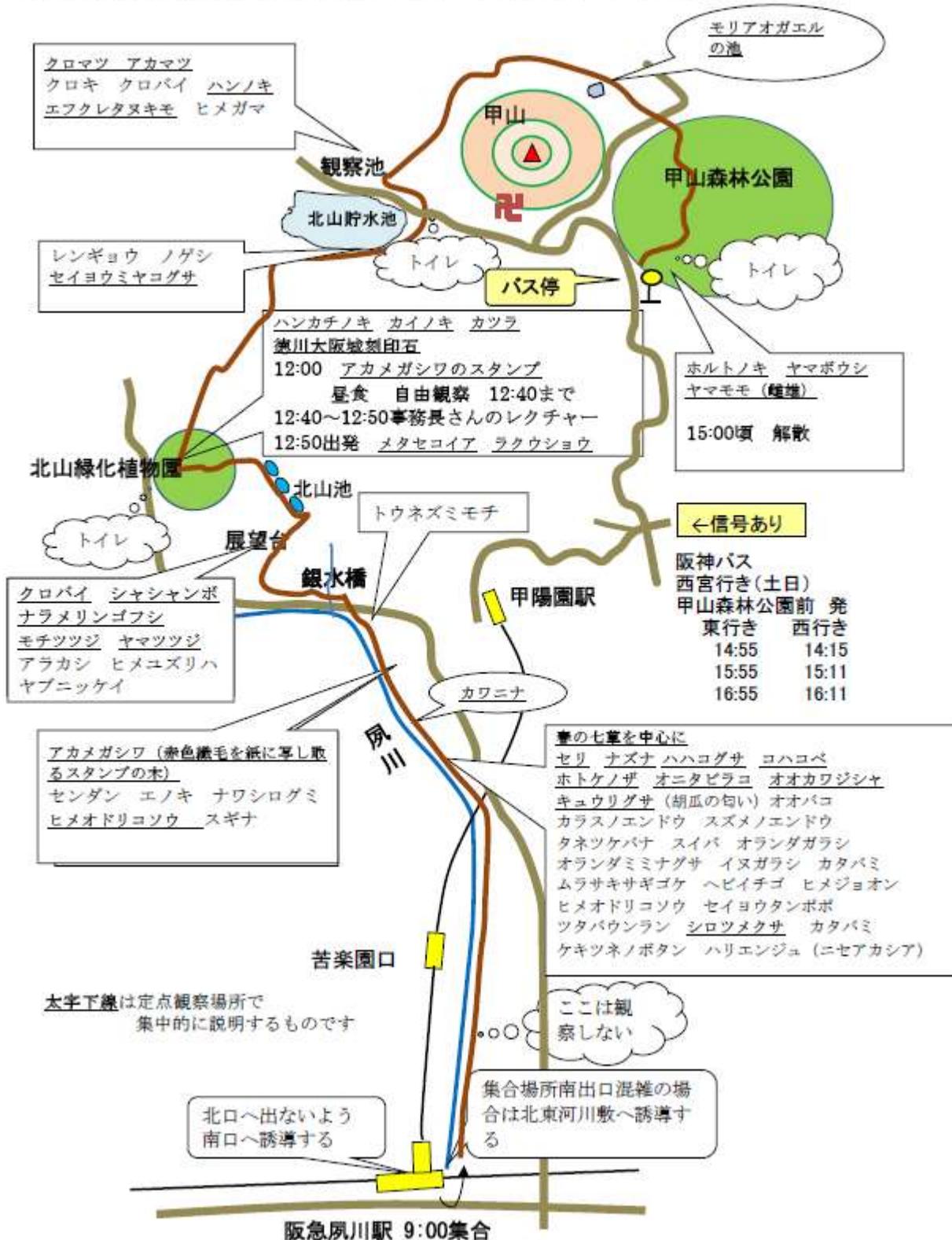
観察リーダーを各班会員もサポートし、団子にならずスムーズに時間通り進行。

[ビジターの声]: 人数が多いのにしっかり説明が受けられたと好評であった。

以上 (報告者 今井)

<添付資料-1>

六甲山自然案内人の会 H24年5月13日 (日) 定例観察会 (1班担当)



夙川・北山緑化植物園・甲山森林公園の主な植物 —ロメモ

六甲山自然案内人の会1班 2012年5月13日例会

和名・科名	ガイドロメモ (文責大橋)
1 セリ セリ科	春の七草の一つで水辺や湿地に自生する多年草。野菜としても栽培されている。夏白い花を咲かせる。〔セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ〕
2 ナズナ アブラナ科	春の七草の一つで日本国中何所にも生える雑草。別名ペンペン草、花後の実が三味線のバチに似ている。
3 ハハコグサ キク科	春の七草(御形—ゴギョウ)の一つで全国の休耕田や畦道に生える2年草。「老いてなお懐かしき名の母子草」高浜虚子
4 コハコベ ナデシコ科	本来のミドリハコベと共に広義で春の七草の一つ(ハコベラ)。日当たりの良い田畑やあぜ道、広場公園等に沢山生えている。
5 ホトケノザ シソ科	春の七草ではありません。春の七草は「コオニタビラコ」のことです。日本国中何所にも早春から晩秋まで咲いている。
6 オニタビラコ キク科	日本全土の道端や公園広場等によく生える雑草。春の七草と言われるコオニタビラコに比べ全体的に大型のため鬼と言われている。
7 キュウリグサ ムラサキ科	日本全国の道端や田畑の畔などに生えている。茎を揉むと胡瓜の匂いがする。
8 オオカワジシャ ゴマノハグサ科	ヨーロッパからアジア北部原産の帰化植物。在来種の「カワジシャ」より大型である。□花はオオイヌノフグリと良く似ている。
9 シロツメクサ マメ科 (クローバー)	江戸時代に渡来したヨーロッパ原産の帰化植物。花の赤い「アカツメクサ」も有り。ガラス器などをヨーロッパから輸入する時、器がわれないように花を乾燥させて箱に詰めたから詰め草と言う。その種が繁殖し全国に広がった。
10 アカメガシワ トウダイグサ科 雌雄異株	春の新芽は赤い繊毛で覆われている(紫外線から若葉を護るため)赤い若葉を紙の間に挟んで強く押すと葉の模様が写し取れる=スタンプの木。名前の由来=食べ物を盛るカシワの代用として使ったから。
11 ヒメオドリコソウ シソ科	ヨーロッパ原産の帰化植物で、一年生の草本。半日陰に生育している場合には全体が緑色であるが日照の強い場所では赤紫色を帯びる。
12 クロバイ ハイノキ科	和名の由来はハイノキ同様灰を染色の媒染剤として利用したことによるとのこと。□甲山周辺にはクロキとともに多く見られる。クロキは4月初旬、クロバイは5月上旬に白い花を咲せる。
13 シャシャンボ ツツジ科	本州西部から四国・九州まで分布する常緑小高木。熟した果実は黒紫色の球形で□食べられる。特徴=葉裏の主脈が突起している
14 ナラメリンゴフシ 虫こぶ	ナラの小枝に出来る虫こぶでリンゴに似る。中にはナラメリンゴタマバチの幼虫が入っている。
15 モチツツジ ツツジ科	本州の静岡以西と四国の山地に生える半落葉低木。葉は秋に紅葉するが落葉せず冬を越す。葉の展開と同時に枝先に3から5個の花をつける。新芽・特に蕾に腺毛が多く触ると粘つくのでこの名前がついた。
16 ハンカチノキ ハンカチノキ科	中国原産の落葉高木 雌雄異花□花を包むように付いている大小2枚の“苞”(葉が変化したもの)がハンカチがぶら下がっているように見えることからこの名前がついているようです。□
17 カイノキ ウルシ科	中国原産の落葉高木で中国の孔子廟に植えられていることから伊問の聖木と言われています。□雌雄異株 葉は偶数羽状複葉。岡山旧池田藩創設の開谷学園に植えられているのが有名。
18 カツラ カツラ科	落葉高木 雌雄異株 北海道~本州~四国~九州の日本全土に分布する。□花が終わると雌木には小さなバナナのような実が多数成る。ここ北山緑化植物園には雌雄各1本が植えられています。
19 ラクウショウ スギ科 別名:沼杉	アメリカ大陸に分布する落葉高木。湿地を好み長期間の水没に耐えることができる。根が水中にあるため地上に気根を出し呼吸をする。メタセコイアと似ているが見分け方は葉が互生である(メタセコイアは対生)

<添付資料—2/2>

20	セイヨウミヤコグサ マメ科	ヨーロッパ原産の帰化植物でワイルドフラワーとして法面などに播種されるようになり各地の道路沿いや荒地などに広がりつつある。 在来種のミユアコグサに比べ花がやや大型で、多数付く。
21	ハンノキ カバノキ科	水湿のある低地に、普通に生える。田の畦に植えて、稲木(稲を干すための竿を掛ける木)とされた。根に根粒菌を持ち、肥料木としても有用である。 雄花先熟＝先に雄花序を咲かせ後に雌花序を咲かせる。
22	クロマツ マツ科	日本全土の海岸地域に生える2葉松で、春新芽の長枝の基部に雄花、先端に雌花を着ける、雌花は受粉後翌年の春精子が子房の中の胚芽にたどり着き受精する。受精した球果は生長し秋松ぼっくりとなる。葉は堅く樹肌は黒く男松とも言う。
23	アカマツ マツ科	日本全土の山手地域に生える2葉松で、春新芽の長枝の基部に雄花、先端に雌花を着ける、雌花は受粉後翌年の春精子が子房の中の胚芽にたどり着き受精する。受精した球果は生長し秋松ぼっくりとなる。葉は柔らかく樹肌は赤く女松とも言う。
24	エフクレタヌキモ タヌキモ科	日本のタヌキモの仲間は7種類ほどあるそうですが、何れも葉が水中に沈んでおり、本種のように水に浮いて花を支えているものはないそうです。 水面に足のように見える7本の葉の先についている捕虫囊でミジンコなどのプランクトンを食べるほか、普通の植物のように光合成も行っている。マニアがアメリカから持ち帰って放植したものらしく、日本では10年くらい前から確認されているそうです。
25	モリアオガエル	森の樹上に棲んで、産卵期(4月～6月)樹木に囲まれた小さな池に集まり樹木の枝に泡状の卵塊を産みます。 一尾の雌に2～3尾の雄が精子をかけ・・・僕のお父さんは誰？
26	ホルトノキ ホルトノキ科	常緑であるが一年中一部の葉が紅葉しており、良く似た葉のヤマモモと区別するポイントである。名前の由来は「ポルトガルの木」から転訛したと言われている。 実がオリーブに似ており平賀源内がオリーブの木と間違えたと言う逸話もある。
27	ヤマボウシ ミズキ科	5～6月真っ白な花を咲かせるが白い花弁に見えるものは総苞でありその中心に大仏様の頭のような多く(30～40個)の小さな花を咲かせる。 果実は赤いイチゴのようで甘く食べられる。
28	ヤマモモ ヤマモモ科 雌雄異株	比較的暖地を好み、果実は甘く食用となる。高地・和歌山の果実は良質で販売されている。最近では改良され大粒な品種が出来ている。 ここ甲山森林公園には沢山自生している。